

## 授業公開により、本専攻の特長を発信しています

4月17日(火)～5月1日(火)の2週間にわたり、授業が公開されました。本学教育学部生をはじめ、私立大学生、現職の先生方など、さまざまなお立場の皆様(延べ30名)にお越しいただきました。年度初めのお忙しい中、ご参観いただきまして、ありがとうございました。

### ◆ 受講生の学びを見ていただきました

参観者から多数の感想をいただきましたので、抜粋して紹介します。紹介しきれなかった皆様も含めまして、誠にありがとうございました。



### ◆ 「授業公開の意図」を説明します

授業を公開するのは、本専攻についての理解を深めていただきたいと願っているからです。現職教員として大学院派遣を希望する前に、本専攻の様子を直接見ていただければ、大学院での学習のイメージが確かなものになります。ストレートで進学を目指す学部生にとっても、他専攻と類似するところや異なるところを知る上で、授業参観はよい機会です。

授業公開週間を4月下旬に位置付けている理由は、二つあります。第一に、多くの授業を参観いただきたいからです。本専攻の授業は、前期と後期に均等に開講されてはいません。全体の2/3が前期に、1/3が後期に位置付けられています。後期になると、大学院生(1～2年生の全員)は連携協力実習校へ出向き、さまざまな実践を通して学習を進めます。実習校へ出向く時間(曜日)を確保するために、後期の授業を少なくせざるを得ないという事情があります。第二の理由は、授業の序盤を見学していただきたいからです。授業の開講から2～3週目にあたるこの時期に、担当教員は授業のねらいやゴールを示して、受講生が授業のアウトラインをしっかりと理解できるように努めます。参観者にも、授業のアウトラインと特徴をつかんでいただきたく、この時期に公開しています。

### ◆ 授業公開週間以外での参観は？

事前にご連絡をいただければ、参観可能です。教育の研究と実践の充実に向けて、教育学部や教職大学院では「学校現場と大学の架橋」がキーワードとしてますます重視されています。本専攻の授業やさまざまな取り組みがブリッジとなるように、学習の場は常に開かれています。関心のある方は、お気軽にご連絡ください。

(文責:人見久城)

○現職の先生と学生等で様々な意見を交換しあうことができるこのスタイルは、とても深い学びとなり、得るものが多いと感じました。雰囲気もとてもよかったです。(学部4年生)

○大学院の発展的な授業を実際に見て知ることができ、よかった。院生のお話もきくことができ、貴重な経験ができよかったと思います。グループワークという活動が多く、ただ聞くだけでなく主体的に参加できました。(学部4年生)

○現職の先生が中心で構成されていたため、現場の内容など生の声を聴くことができ、とても有意義でした。

(学部4年生)

○教職大学院の方々と話をしたり、うかがったりする中で、現場的な視点やそれらを生かした考え方に触れることができ、貴重な体験でした。大学生のときからこの環境にもっと触れていけたらよかったなと思いました。(学部4年生)

○実際に中に入って授業を体験させていただいて学ぶことが多かった。「柔軟性」について考える場面では、様々な意見を聞くことができ参考になった。それと同時に自分は考えが固くなってしまっているなど感じた。

(中学校教諭、宇大へ内地留学中)

○教職大学院を修了した方のお勧めにしたがい、見学しました。「授業研究会の担当には、自分はないし…」という気持ちで気軽に来てしまいましたが、私たち一人一人の考え方の改革や訓練が大切だなと思いました。できれば全部見学したくなりました。(小学校教諭、宇大へ内地留学中)

## 「語彙」 教育実践高度化専攻准教授 菊地高夫

昨年あたりから、大人の語彙力を高める本が複数の出版社から発刊されています。近隣の書店でも、ビジネスマン向けの「語彙力」に関するコーナーが設置されています。ちょっとしたブームといったところでしょうか。気が付くと、私の家の本棚にも、この類いの本が2、3冊並んでいました。その中の1冊、高橋こうじ著『日本の大和言葉を美しく話す一こころが通じる和の表現一』（東邦出版）には、「大和言葉」の魅力が綴られています。例えば、「思い」を伝える際の言葉として、“目頭が熱くなる”“胸に迫る”“ほだされる”等が取り上げられています。大和言葉を眺めていると、心が和んでくるのは私だけではないはずです。

こうした「語彙力」本ブームの背景として、「仕事や人づきあいの中で正しい言葉遣いをしたい。」「語彙を増やしたい。」といった社会人のニーズの高まりが考えられます。

一方、子供の語彙力はどうでしょうか。「語彙が乏しい子供が増えてきた」という声も聞こえてきます。中教審答申（平成28年12月）における「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」との指摘を踏まえ、平成29年告示の小・中学校学習指導要領では、国語科改訂のポイントの一つとして「語彙を豊かにする指導の改善・充実」が挙げられています。使用語彙を増やすとともに、語句のまとまりや語句と語句との関係、語句の構成や変化への理解など、語彙の質を高めることが重視されています。これまで行ってきた「言葉の言い換え」「国語辞典の活用」「〇〇を表す言葉集め」などの語彙を増やす指導に加えて、語彙の質を高めるための指導をどのように進めていくかがこれからの課題です。

日々の学校生活の様々な場面で、教師は子供へ語りかけたり、子供と対話をしたりしています。教師の言葉が子供たちに与える影響は大きいと言えます。私も一教師として、今後も活字に親しみ語彙を豊かにしていきたいと考えています。

## 《シリーズ：院生の声 ③》

### 教職大学院での学び

この度、教職大学院での学びの機会をいただき、これまでお世話になった先生方や一緒に過ごした子どもたちを思い出しながら時を過ごしています。

昨年の前期の授業では、現代の教育の課題に直結する教育理論と実践的なアプローチを学ばせていただきました。その中で、これまでの自分の指導が経験に頼りがちなものであり、子どもの学びを中心とした学習活動ばかりではなかったことに気付くことができました。また小・中学校、特別支援学校からの現職派遣や学卒の院生との対話やグループワークを通し、それぞれの立場での見方や考え方を共有することができました。それらの経験から物事を多角的・多面的に捉えよう意識するようになり、徐々に視野が広がりはじめたのではないかと思います。後期は、実習校での授業観察や自分の研究課題に関わる実践をさせていただき、前期で学んだ理論と実践とが行き来しはじめる中で、これまでの自分とは違う、別の自分の存在を少しずつ感じるようになってきました。

今年度も実習校での実践と振り返りを重ね、学びを深めています。また「栃木の学校改革」の授業では、先進的な取り組みをされている学校を視察させていただき、どの子も明るい表情で学び合っている姿を目にすることができました。そしてその学びを支えるものとして、教育課程の中に子どもたちの実態を踏まえた指導が位置付けられていることや全校での指導体制が効果的に機能していること、個に対応した指導やユニバーサルな授業の実践などを知ることができました。

教職大学院での様々な機会を通してじっくりと学ばせていただけることに感謝し、残された時間に悔いが残らないよう心がけていきたいと思えます。また過去から現在に至るまで、見えるところ見えないところで支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(2年 石川綾子)

### 小さな成長

「振り返ること」、「見つめ直すこと」、これらのことが大切だと、教職大学院にきて改めて実感しました。そこで、今回この通信を書くにあたり、自分自身の成長について見つめ、振り返ってみたいと思います。自分自身はどう成長したのか、言葉で表現することは難しいなど思いながらも、一つだけ自信をもって自分にとっての成長だと思えることがありました。それは、「一歩踏み出す勇気をもつことができた」ということです。教職大学院では、学内に留まらない幅広い学びの場があります。その学びの場に出ていくことを初めは不安に思っている自分でしたが、共に学ぶ仲間背中を押されながら、だんだんと勇気をもって踏み出すことができるようになりました。

先日、日本臨床発達心理士会栃木支部の研修会があり、参加させていただきました。研修を受けて、子どもたちが共に学び合い、対話していくを通して成長していく姿や、地域のために頑張りたいという子どもたちの思いに、深く感銘を受けました。そして、様々な分野との連携を図りながら協働していくことが、地域と関わるための一助になるということを知ることができました。研修を通して、地域のために、ふるさとのために自分自身ができることにはどんなことがあるのだろうかということ深く考えさせられました。自分だからこそできることを考え、深めていきたいと思えました。

一歩踏み出す勇気は、自分自身に新たな知識や気づき、考え方の広がりをもたらしてくれました。小さな成長ではありますが、気づくことができ嬉しかったです。この成長は自分の力だけではなく、共に学ぶ仲間のおかげでもあります。仲間感謝しながら、この小さな成長を大切に、これからも自分自身の学びの場を広げていきたいと思えます。そして、たくさんの小さな成長を積み重ねていくことで、今の自分から一回りも二回りも大きく成長できるように努力していきたいです。

(2年 小又永理)

《編集・発行》宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻（教職大学院）

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350番地 Tel: 028-649-5242

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook : <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。

